



News Letter



第12号

大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel: 06-6263-9753, Fax: 06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail: jaso@takenaka.co.jp

秋の日帰り旅行～比叡山延暦寺と佐川美術館～ 2006年10月28日(土)

今回の日帰り旅行は60名のご参加をいただき、滋賀県の佐川美術館と比叡山を訪れました。まずは、琵琶湖大橋を渡って湖畔に位置する佐川美術館へ。学芸員の方から美術館や展示について説明を受け、シルクロードシリーズで有名な日本画家・平山郁夫さんの作品を中心に、彫刻家・佐藤忠良さんの常設展や画家・有元利夫さんの特別展を鑑賞しました。よく晴れたこの日の琵琶湖は景色も清々しく、湖畔ではピクニックをする行楽客の姿も多く見られました。琵琶湖ホテルでの昼食の後、比叡山延暦寺に到着。延暦寺の総務部長・小林祖承師のご案内で、重要な堂塔が集まる東塔内の国宝殿、根本中堂などを見学しました。また特別のお計らいで、延暦寺の迎賓館である書院にお招きいただきご講話を伺いました。

＜アンケートより＞

「佐川美術館での素晴らしい作品との出会いや延暦寺の迎賓館での講演も楽しくお聞きすることができ、良い一日でした」

(上田雅春さん)

「佐川美術館のいい環境にすっきりした建物の美しさ。のんびりと平山郁夫さんらの世界を見学しました。湖畔をドライブして、琵琶湖ホテルでの昼食も美味しかったです。比叡山の空気はひんやり清浄。小林祖承師が元気にご案内してくださり、迎賓館での講演もよかったです」

(辻本初枝さん)



文楽ワークショップ 2006年9月27日(水)

来年に予定されるアメリカ公演に先立ち、大阪の誇る伝統芸能・文楽の魅力に迫る企画として、人形遣いの三世桐竹勘十郎さんら文楽協会の方々をお招きしてワークショップを開催しました。まず、文楽の三味線について鶴澤燕三さんからご説明いただき、場面や感情を音色で表現する巧みな技を披露していただきました。続いて勘十郎さんが、人形の仕組みや遣い方などを実物を用いてわかりやすく解説してくださいました。人形遣い三人の息の合った動きによって命を吹き込まれたように生き生きとしたしぐさや表情を見せる人形たちに、参加者の皆さんは思わず身を乗り出して見入っていました。最後に竹本津駒大夫さんの語りも加わって、世話物の代表作「艶容女舞衣」から有名な「お園のくどき」の場面を演じていただきました。文楽が初めての方も、日頃ご覧になる方も、知ればおもしろい文楽の知識と間近で見る迫力の演技を堪能されたようです。



日米野球2006観戦 2006年11月7日(火)

京セラドーム大阪で行われた日米野球の第4戦を観戦しました。メジャーリーグのオールスター選手を迎え、カナダ、アメリカ、日本の3国歌演奏で始まった試合は、惜しくも日本プロ野球選抜チームの敗北に終わりましたが、いつもとは一味違ったお祭りムードに参加者の皆さんも大いに楽しめたようです。また、米国総領事館のご好意で、ロッテのバレンタイン監督のサインボール、サイン色紙を抽選で5名の参加者にプレゼントさせていただきました。



スケジュール

2007年1月19日(金)18:00～

2007年 新年パーティ 場所: リーガロイヤルホテル

恒例の大阪日米協会と大阪・サンフランシスコ姉妹都市協会、大阪・シカゴ協会の共催の新年パーティです。豪華商品の当たるくじ引きや楽しいアトラクションをご用意して、皆様の参加をお待ちしております。



ACCJチャリティ・ウォークを開催

在日米国商工会議所(ACCJ)関西支部は、10月1日(日)にHAT神戸のなぎさ公園において、関西では初めてのチャリティ・ウォーク(Walk-A-Thon)を開催しました。これはACCJが標榜する企業の社会的責任(CSR)活動の一環として開催されたもので、今年は『働く女性のための環境改善』をテーマに選びました。米国総領事館や関西の各地方自治体(兵庫県・神戸市・大阪府・大阪市・京都府・京都市)、さらに関係連はじめ神戸・大阪・京都の商工会議所等の経済団体に後援して頂き、スポンサー企業の協賛金とイベント参加者からの寄付金(チケット購入代金)など1千万円の浄財が集まりました。イベントの開催に要した経費を差し引いた残りを、この事業の趣旨に沿って、働く女性に奉仕する団体に寄付することにより、イベント当日は、朝早くから多くのボランティアが会場設営の準備に携わりました。雨天にもかかわらず来場された800名を超える参加者には、イベント用の特製のT-シャツを着てもらい、お祭り気分浸って頂きました。開会式では、ダニエル・ラッセル米国総領事や關大阪市長はじめ、大阪府・兵庫県・神戸市代表のご挨拶と、ご来賓全員による鏡開きを行なうなど盛り上がりを見せました。会場にはスポンサー企業のPR用ブースをはじめ、国際色豊かな食べ物や飲み物を販売する屋台の出店が設けられ、ステージではアトラクションをはじめ、国際学校や社会人のアマチュアバンドのライブ演奏やプロのアーティストの歌唱等が次々に披露されて、参加者を楽しませました。

会員便り



小野影久さん
(神戸市)

9月27日に開催された「文楽ワークショップ」に参加させて頂きました。和やかな中にも大変充実した会でしたが、特に3つの点で文楽の奥深さに触れることが出来、すっかり文楽ファンになりました。1つ目は「三業」、即ち太夫、三味線、人形遣いの技術の高さです。美しい「なにわことば」の義太夫節、ダイナミックな感情表現力を持つ太倅、そして人間以上に人間らしい人形の動き、それぞれについての解説を通して三業の方々の精進を改めて知りました。2つ目は人形の「三業遣い」のコミュニケーションです。人形の目線と指先が一致する様は本当に息が合っていました。足遣い、左遣いと20年以上の修行を経て主遣いとなる過程で磨かれる高度な連携のとり方を伺い、ますます人形から目が離せなくなりました。そして3つ目は三業と人形と観客が作る「場」です。ワークショップ最後の「艶容女舞衣 酒屋の段」では、桐竹勘十郎さんをはじめ三業の方々の人間性、人生の厚みが人形を焦点として直に伝わってきました。以前白洲正子さんが、日本の芸能では技術は若いうちに完成し、後は耐えて年とともに内面を充実させてはじめてその美しさが完全に表現されると言っておられましたが、今回のワークショップでも真にそれを見た思いがしました。是非、近いうちに国立文楽劇場へ行こうと思っています。



松浦大吉さん
(豊中市)

アメリカといえば、まず「大きい」という印象があります。といいつつも、以前オレゴンへ行った時、車でリゾート地のセブンズマウンテンへ行く途中、砂漠にさしかかる前にガソリンスタンドがあり、そのスタンドに「ドクロ」のマークがありました。もっとも、その時は何も感じずに見ただけですが、砂漠に入ると走れど、走れど、荒野のみで何もなく、延々と2時間くらい走り続けると、突然民家に突き当たりました。どうも、道を間違えたようで、引き返して2時間、正規の道に戻りましたが、途中でパンクしてしまいました。その時、やっとガソリンスタンドのドクロのマークの意味が分かりました。すなわち、「車整備を万全にして、ガソリンを満タンにして行きなさい、でなければ抜けられない砂漠である」という事なのでしょう。また、リゾート地の事でありますが、着いた時は客数が少なく、1人1室ずつ荷物を置かせてもらい、溪流川下りに出掛けました。そして部屋に戻ったところ、3人1室にまとめられており、「なぜなの」と管理する人に聞きますと、たくさんの方がリゾートで楽しみに来られたので、みんなで楽しませよう!との事。客が大勢来たので1室にまとめられたわけなのですが、日本では考えられない事態にとまどいを感じました。しかし、冷静に考えれば、これが本来のあるべき姿でしょう。リゾートは個人で楽しむものでなく、皆で楽しむべきものであり、来られた人全員で楽しむを共有すべきものであると!これこそ、本当に「大きさ」を感じさせられた旅でした。

アメリカは大きい!

アメリカといえば、まず「大きい」という印象があります。といいつつも、以前オレゴンへ行った時、車でリゾート地のセブンズマウンテンへ行く途中、砂漠にさしかかる前にガソリンスタンドがあり、そのスタンドに「ドクロ」のマークがありました。もっとも、その時は何も感じずに見ただけですが、砂漠に入ると走れど、走れど、荒野のみで何もなく、延々と2時間くらい走り続けると、突然民家に突き当たりました。どうも、道を間違えたようで、引き返して2時間、正規の道に戻りましたが、途中でパンクしてしまいました。その時、やっとガソリンスタンドのドクロのマークの意味が分かりました。すなわち、「車整備を万全にして、ガソリンを満タンにして行きなさい、でなければ抜けられない砂漠である」という事なのでしょう。また、リゾート地の事でありますが、着いた時は客数が少なく、1人1室ずつ荷物を置かせてもらい、溪流川下りに出掛けました。そして部屋に戻ったところ、3人1室にまとめられており、「なぜなの」と管理する人に聞きますと、たくさんの方がリゾートで楽しみに来られたので、みんなで楽しませよう!との事。客が大勢来たので1室にまとめられたわけなのですが、日本では考えられない事態にとまどいを感じました。しかし、冷静に考えれば、これが本来のあるべき姿でしょう。リゾートは個人で楽しむものでなく、皆で楽しむべきものであり、来られた人全員で楽しむを共有すべきものであると!これこそ、本当に「大きさ」を感じさせられた旅でした。

日米学生会議

日米学生会議は1934年、満州事変以降失われつつあった日米相互の信頼回復を目指した日本人学生たちにより創設されました。この日本初の国際的學生交流プログラムは「世界の平和は太平洋の平和にあり、太平洋の平和は日米間の平和にある。その一翼を学生も担うべきである」という創立当時の理念に基づき、様々な試験を生きて抜いて現在まで継続されてきました。そして、去る7月27日から8月21日にかけて「二国間を超えた未来へ伝統への帰郷と私たちの挑戦」"Examining the Future of the Japan-America Relationship Within the Global Framework"というテーマの下、イサカ、ワシントンDC、オクラホマ、サンフランシスコで第58回日米学生会議が開催されました。本会議は7つの分科会に分かれてのディスカッションを中心に、各訪問地においてフィールドワークやレセプションなどが行われました。特に、ニューヨークでは国連日本代表部、ワシントンでは世界銀行や国務省、日本大使館、サンフランシスコではIT関連企業などを訪ね、お話を伺いました。私たち日米学生会議は、創設以来72年にわたり毎夏日米交互で行われる約1ヵ月間の会議を通して、日米両国学生の相互理解と友情、信頼関係を醸成し続けています。そして、来年日本で開催される第59回会議に向け、今まさに新たに実行委員となった学生たちが準備に励んでいます。ホームページ <http://www.jasc-japan.com>



アメリカと私



町永昭五さん
(芦屋市)

いささか宣伝じみて恐縮ですが、この秋、私は『わが留学の記-半世紀前のアメリカ-』(新風舎)と題する小著を出版しました。戦時中、鬼畜米英と教えられ、英語教育は疎かにされ、B29の空襲にさらされ、最後には竹槍訓練まで受けて育った軍国少年でした。しかし、戦後は、一転してアメリカに憧れ、1950年代末、まだ古き良きアメリカが色濃く残っていた彼の地に学んだのです。ニューヨーク州はロチェスター、そしてシカゴ、後にノーベル経済学賞を受賞したミルトン・フリードマン教授に出会ったのです。私の生涯のテーマがこの時に決まりました。家内も同時期に留学生活を送っています。帰国して結婚、私は大学で経済・金融を講じ、家内は、英語を生かして東京オリンピックのコンパニオン、大阪万博のエスコートガイドを務めました。今もカリフォルニア州モンテベロ市と姉妹都市関係にある芦屋市の国際交流のために頑張っています。そんなわけで、私ども夫婦の周辺には、いつも、なんとなく「アメリカ」がありました。すっかり仕事を離れたいま、社会的には井の中の蛙にならないように、そして、なによりも自らのボケ防止のために、かつて私たちが愛し愛された、親切で鷹揚な、そして温かかったアメリカと、いましばらく関わっていたいと思っています。

会長のひとりごと

アメリカには雄大な自然に出合える場所がたくさんありますが、ハワイのカウアイ島も自然に恵まれた素晴らしいところです。例年8月の休みには、グランド・ハイアット・カウアイで家族と一緒に過ごします。このホテルは1991年のグランドオープンの翌年に、ハリケーン・イニキにより受けた大きな被害を地元と一体となって乗り越え、今ではすっかりカウアイ島に定着し、地元の皆さんとも交流も深めています。昨年、15周年のお祝いの席では、元カウアイ郡長のクサカさんが踊られたフラダンスに、私はウクレレで応えるという楽しい場面もありました。また、ここにあるボイブ・ベイ・リゾート・ゴルフコースでは、毎年11月にPGAグランドスラムを開催します。今年もタイガーウッズをはじめとするメジャータイトル入賞者4名が競い合いました。私も毎夏、このゴルフ場で家族と一緒にゴルフをすることがとても楽しみで、今年も滞在中は毎日のように、強い日差しに映える青い海と緑を楽しみながらプレーしました。カウアイは年を追って家族や地元の方々と良い思い出が増えていく、私にとって幸せがつまった大切な場所です。



会員便りにご投稿下さい

原稿締切: 掲載希望月の前月20日頃
文字数: 日本語⇒500文字程度
英 文⇒250word程度

写真: できればデジタル画像が望ましい
送 付: 郵便、Fax、E-mailにて事務局宛送付

◆新入会員紹介◆

法人会員

株式会社セールスフォース・ドットコム
代表取締役社長 宇陀 栄次
アカウントエグゼクティブ 小崎 左智子

個人会員

久保田 ゆかり (大阪市) 渡邊 満智子 (箕面市)
四宮 孝郎 (西宮市)

家族会員

投稿規定

大阪日米協会の会報誌への投稿(寄稿を含む)規定は次の通りです。

1. 投稿の原稿は日本語と英語をお願いします。
2. 投稿頂いた原稿は返却しません。但し写真やイラストはご指示に従い返却致します。
3. 投稿された原稿の選択と原稿の短縮や修正は大阪日米協会の判断にお任せ下さい。
4. 投稿される原稿は社会的・文化的・芸術的・国際的ななど、本会の目的に合う内容をお願いします。
5. 投稿者の中から抽選で粗品を差し上げます。発送をもって、発表に代えさせていただきます。

編集後記

9月に日米野球の開催が発表され、急でしたが、大阪日米協会の皆さんと観戦する機会を設けました。11月7日(火)午後6時のプレイボールでした。事前予告なしの急なご案内に加え、平日にも関わらず、当初予定していた50名を大幅に上回る70名のご参加をいただきました。すでにご予定があった方には申し訳ありませんでしたが、このようなタイリナー企画にも柔軟に対応していきたいと思っています。(事務局)

(敬称略)



News Letter



Vol.12

大阪日米協会/JAPAN-AMERICA SOCIETY OF OSAKA

4-1-13 Honmachi, Chuo-ku, Osaka, 〒541-0053, Japan Tel: 06-6263-9753, Fax: 06-6263-9773
http://www.jaso-1946.com E-mail: jaso@takenaka.co.jp

Autumn Day Trip – Enryakuji Temple on Mt. Hiei and Sagawa Art Museum October 28, 2006 (Sat)

We visited Sagawa Art Museum in Shiga and Enryakuji Temple on Mt. Hiei with 60 participants. Our first stop was Sagawa Art Museum located by Lake Biwa. After a briefing from the curators about the museum and the exhibitions, we saw the works of Ikko Hirayama, who is famous for his "Silk Road" series, and sculptor Churyo Sato, and the special exhibition of painter Toshio Arimoto. The view of Lake Biwa was great under the clear autumn sky and there were many people having a picnic by the lake. We stopped by at Biwako Hotel to have lunch on our way to Enryakuji on Mt. Hiei. At Enryakuji, Administrative Manager Mr. Kobayashi showed us around in the Todo area, which houses the main facilities such as Konponchudo (Central Hall), Dai-kodo (Lecture Hall) and the treasure house. After that, we got an exclusive tour of Shoin, the guesthouse of Enryakuji, which is usually not open to public and listened to a lecture.

<Members' Comments>

I enjoyed wonderful artworks at Sagawa Art Museum and the lecture at the guesthouse of Enryakuji Temple. I had a really good time.

---Masaharu Ueda

Neat design of the museum buildings was matching the nice environment. I enjoyed exploring the world of Ikko Hirayama and other artists. Pleasant drive along the lake and tasty lunch at Biwako Hotel. The air was cool and clear on Mt. Hiei. Mr. Kobayashi guided us around energetically and gave us a good lecture at the guesthouse. ---Hatsue Tsujimoto



BUNRAKU Workshop September 27, 2006 (Wed)

Bunraku is a theatrical art of puppet play originated in Osaka. In 2007, the Bunraku company will be performing in several cities in the United States. We held a workshop, in advance of the US tour, inviting the master puppeteer Kanjuro Kiritake and some other performers to learn more about this traditional art. First, Shamisen player Enza Tsurusawa gave us a lecture about the string instrument and its role in Bunraku, demonstrating how to express certain situations and emotions through its sound. Kanjuro Kiritake showed us the mechanics of real Bunraku puppets and how to manipulate them. The audience was riveted to the lively movements and expressions of the puppets the three puppeteers manipulated in perfect coordination. Finally, joined by the narrator Tsukomadayu Takemoto, they played the highlight of a popular tragic love story "Hadesugata Onnamaiginu". Bunraku lovers or beginners, we all enjoyed watching the performance very closely and learned about the fascinating world of the puppet theater.



Baseball All Star Series 2006 – MLB vs. NPB November 7, 2006 (Tue)

We watched the fourth game of the All Star Series played at Kyocera Dome Osaka. The game started with three national anthems, Canada, US, and Japan. MLB all-stars won a sweeping victory against Japanese professional team players. Participants enjoyed the festive atmosphere of the event as well as the game. The Consulate General provided us with special presents, autographed balls and cards by Chiba Lotte Marines Manager Bobby Valentine, that were given to five participants by lottery. Congratulations!



Upcoming Events

January 19, 2007 (Fri) 6 p.m.

New Year's Reception Venue: Rihga Royal Hotel

Annual party co-hosted by Japan-America Society of Osaka, Osaka-San Francisco Sister City Association, and Osaka-Chicago Association. Enjoy fun attractions and win a great prize in the lottery!



ACCJ Walk-A-Thon

On Sunday, October 1st at Nagisa Park in HAT Kobe, the American Chamber of Commerce in Japan (ACCJ) Kansai Chapter held its first-ever charity event (Walk-A-Thon). In line with the Corporate Social Responsibility (CSR) initiatives established by the ACCJ in 2006, the Kansai Chapter chose "Improving the Environment for Working Women in Japan" as its charity event theme for 2006 to create more awareness about the present day situation facing women in the workplace. Even though the event itself was held in Kobe, the ACCJ Kansai Chapter received formal event endorsements from the American Consulate General Osaka-Kobe, Hyogo Prefecture, Kobe City, Osaka Prefecture, Osaka City, Kyoto Prefecture, Kyoto City, Kansai Economic Federation, Kobe Chamber of Commerce & Industry, Osaka Chamber of Commerce & Industry, and Kyoto Chamber of Commerce & Industry in an effort to bring the community at large together for a good cause in supporting working women. With corporate sponsorships and event ticket sales bringing the total collected amount of funds to over 10 million yen, needless to say the ACCJ Kansai Chapter will be able to donate a significant amount of money to local charities supporting working women once all the accounts have been settled. Unfortunately Mother Nature did not cooperate as intermittent rain plagued the Kobe area on October 1st. However, the unfavorable weather did not put a damper on anyone's spirits as volunteers were at the event site early in the morning to prepare for the day's festivities. With over 800 bearing the official event T-shirt coming to experience the first-ever ACCJ Kansai Chapter Walk-A-Thon, the mood in and around the HAT Kobe area was nothing short of a festival with food and drink booths selling an assortment of items from around the world.

Throw in stage performances by professional singers, amateur musicians, and international school bands and you have the makings of a very intriguing stage line-up.



Member's Column



Akihisa Ono
(Kobe)

Bunraku Workshop
I joined the Bunraku Workshop on September 27. It was very enjoyable and inspiring. I got really fascinated with Bunraku especially in three aspects that form its profound charm. The first aspect is the great skills of the three kinds of performers: narrators, *shamisen* players, and puppeteers. Through the lectures and demonstrations, I learned about their hard work and appreciated the beautiful narration told in old Osaka dialect, dynamic sound of shamisen capable of expressing emotions, and incredibly human movements of the puppets. Second is the coordination of the three puppeteers who manipulate a puppet. The doll turns its gaze along with its hand movement; that was a perfectly harmonized operation. They train themselves in leg and left-hand movement for more than 20 years to become a head puppeteer and master the highly skilled coordination in the process. I couldn't take my eyes off the puppets. And finally, the atmosphere or some kind of "field" that is created by the performers, puppets, and the audience. At the end of the workshop they performed a scene from "Hadesugata Onnaimagin". It was almost as if I could feel the characters of Kanjuro Kiritake and other performers themselves and their solid life experience through the doll. Masako Shirasu, the writer, says, "In Japanese art, techniques are completed in young ages. After that, only patient effort to mature inside allows the utmost beauty of the art to show through." This workshop showed me what it really meant. I think I will go to the National Bunraku Theater sometime soon.



Daikichi Matsuura
(Toyonaka)

America is Big!
When I think of America, the first thing that comes to my mind is the word "big". It was when I traveled in Oregon. On our way to Seventh Mountain Resort by car, there was a gas station just before the desert. We noticed a skull symbol on the dispenser. Going into the desert, we drove on and on for about two hours without spotting anything but the wilderness before we finally came to a private residence. Figuring that we took a wrong way, we spent another two hours getting back to the right track, but we got a flat tire on the way. Then I realized the meaning of the skull symbol at the gas station. It means 'Check up on your car and fill up the tank, otherwise you won't survive the wilderness ahead.' Is that right? When we arrived at the resort, there were few guests. We went out rafting, leaving our baggage in each room, and later came back to find that three people's baggage was put in one room. In answer to our inquiry, the lodge keeper said, "Since many people came to enjoy the resort, let's enjoy together!" In short we were put together because more guests arrived. We were surprised by this situation that is unthinkable in Japan. However, come to think of it, maybe this is the way it should be. Staying in a resort is not a personal pleasure but something we should enjoy together; everyone who comes to this place should share the enjoyment! It was one trip I felt the bigness of the country and its heart.

Japan America Student Conference

Japan America student conference was established by a passionate dedicated group of Japanese students who aspired to re-build the Japan-America relationship that was deteriorating after the Manchurian Incident. This conference is the first international exchange student program in Japan to ever take place, and it is driven by the principle that "the peace of the world lies in the Pacific, and the peace of the Pacific lies in the peace of the Japan-American relationship". Since then, overcoming many challenges and difficulties, this conference has been continuing for more than 72 years, producing leaders in every field. The 58th Japan America Student Conference was held in Ithaca, Washington, D.C. Oklahoma and San Francisco under the theme of "Examining the Future of the Japan-America Relationship within the Global Framework" from 27th July to 21st August. The delegation was divided into seven Round Tables which became one of our main activities, combined with various fieldworks and receptions at every site visited. For example, some of the most memorable events were when we took lectures from the Japanese Mission to the United Nations in New York, World Bank, State Department and the Japanese Embassy in D.C. We also paid a visit to a couple IT companies in San Francisco and learned about the complex economic and business structures in the United States and beyond. The Japan America Student Conference has been actively promoting mutual understanding and friendship between Japanese and American students for over 72 years, throughout the one-month intense conference that is held every summer, in Japan and the US alternately. A total of 16 students were elected from conference as new Executive Committee members as temporary caretakers of the conference, to plan and implement the 59th Japan America Student Conference for next year. (<http://www.jasc-japan.com>)



America and Myself

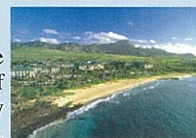


Shogo Machinaga
(Ashiya)

I have recently published a book titled "My Student Days in the USA -Half a Century Ago-". During World War II I was totally immersed in militarism as a boy, being raised in an environment where we were indoctrinated that our enemies were not humans but brutes. English lessons were neglected at school, people were subjected to repeated attacks from the air, and finally combat training was given using sharpened bamboo to fight against potential invaders. However, after the War I found myself an entirely different person from a militaristic boy to a peace-loving one. I developed a craving for studying in the USA. My dream came true in the late 1950s when the USA still retained its nostalgic good old days. I had the good fortune to study at Rochester, NY and Chicago where I studied under Prof. Milton Friedman, a future Nobel prize recipient. It was then that my life's work was formulated. Taeko, my wife was also studying in Rochester, NY about the same time. We got married upon returning to Japan. I pursued a career in lecturing on Economics and Finance at university. Taeko worked for the Tokyo Olympics as a companion and the World Exposition of Osaka as an escort guide. She is currently on the committee of Ashiya Cosmopolitan Association, engaging in the Sister City Affiliation project between Montebello, CA and Ashiya City. As I look back on our life, the USA seems to have rotated somehow around us. Now that I am a retiree, I would be very happy if I could take advantage of my time to have something to do with America whom we loved and admired for its kind, generous and warm hospitality.

Soliloquy

There are a lot of beautiful places in the US where we can enjoy great natural scenery. Kauai island of Hawaii is one of them. Every August, I spend my vacation with my family at the Grand Hyatt Kauai. This hotel has recovered from the great damage by Hurricane Iniki it suffered a year after its grand opening of 1991 together with the local community and has become an integral part of Kauai as a corporate citizen. I remember with pleasure that former Kauai Mayor Mr. Kusaka danced the hula and I played the ukulele at its 15th anniversary event last year. The PGA Grand Slam of Golf is also held there at Poipu Bay Resort Golf Course every November. Four major title winners including Tiger Woods competed this year. I always look forward to playing golf with my family on this golf course and this year I played golf almost every day enjoying the view of the turquoise ocean and lush green in the bright sunlight. Kauai is a special place for me filled with fond memories I share with my family and local friends, and we are making more memories each year.



Write for the Member's Column

Deadline of Contribution: 20th day of previous month for planned publication

Number of words: Japanese ⇒ about 500 characters

English ⇒ about 250 words

Photograph: Digital picture if possible

Dispatch Method: Mail, Fax or E-mail to JASO office

◆New members◆

Corporate Members

Salesforce.com Co., Ltd.
President & CEO: Uda, Eiji
Account Executive: Ozaki, Sachiko
Director, Field Sales: Mitsuda, Sozo

Individual Members

Kubota, Yukari (Osaka)
Shinomiya, Takao (Nishinomiya)

Family Members

Watanabe, Machiko (Mino)

Contribution rules on the JASO News Letter

The following are the contribution rules to the JASO News Letter.

1. We would appreciate it, if you would write your manuscript both in English and Japanese.
2. The contributed manuscript will not be returned to you. However, we will return the photographs and illustrations if you wish.
3. Please understand that the JASO Office will judge the selection of the manuscripts among those submitted and also for editing.
4. The manuscript distributed will be in accordance with the aims of the Society, i.e., social, cultural, artist and international events.
5. Contributors will be awarded gifts, picked by lottery.

Notes All Star Series 2006 MLB vs. NPB was announced in September, and we decided to arrange an opportunity where JASO members can enjoy baseball watching together. Play ball was at 6 p.m. on Tuesday, November 7. Although it was a short notice and the game was on a weekday, we got 70 participants, a lot more than we initially planned. We are sorry that some people couldn't join because of previous arrangements, but we would like to try and slot in some timely events like this. (JASO Office)